1955 年「六甲山北麓の民家について」を歩く

山﨑　敏昭（ひとはく地域研究員）

はじめに

1955 年の『日本建築學會研究報告』に神戸大学の研究者たちによって、六甲山北麓の神戸市北区上唐櫃における茅葺民家 21 戸の調査報告がなされた（註１）。

民家の調査研究は、1960～70 年代に全国的に隆盛したが、この報告は数年先行したものであり、後に「摂丹型民家」と分類された民家形式を見出し、発展過程を考察した魁（さきがけ）の研究であった。

68 年を経た 2023 年初春、報告された集落と民家を探訪し、経年変化した要素と変化していない要素について考察した。

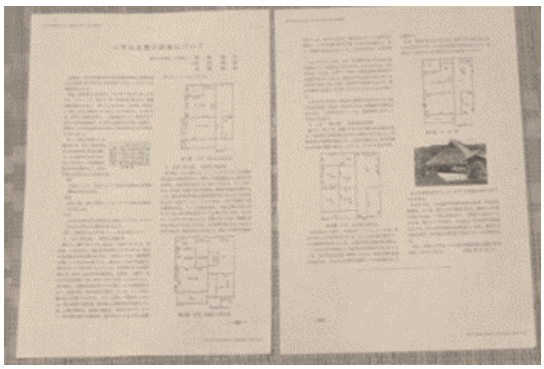

Photo1 松原英男・野地修左・多淵敏樹「六甲山北麓の民家について」『日本建築學會研究報告』1955.10

調査の概要

①　上唐櫃における民家（農家家屋）数の変化

・延宝検地帳（17 世紀後半）80 戸（棟）　→1955 年神戸大報告 90 棟　→・1993 年神戸市報告 123 棟、うち茅葺民家 34 棟（註 2）

→2023 年（今回）120 棟、うち茅葺形式民家 29 棟

②　1955 年に報告された民家 3 棟の現状

→全て現存していなかった。

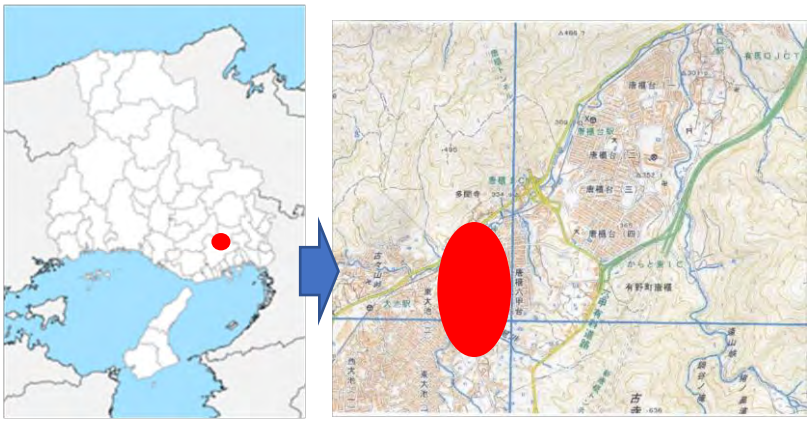

Fig1　調査地の位置

③　詳細報告にないが保存されている住宅

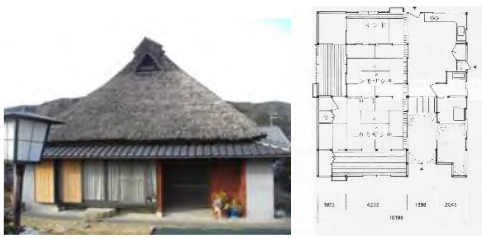

Photo2 川向家住宅（18 世紀後半, 県指定文化財）　photo3 M 家住宅　（18 世紀後半, 市登録文化財）

②歴史的背景と伝承　ー六甲越えの麓集落　　ー

Pnoto4 六甲山北麓を望む唐櫃集落

Photo5 六甲山越えへと続く旧街道

・唐櫃の由来「布土の森・唐櫃石神社」、六甲を越え灘へ出荷される「三田米」の集積地（註３）
・山岳信仰の「六甲山」式神の末裔の家々

・「摂丹型民家」の南東限、・鋼板葺きに変化しつつ維持されている茅葺形式民家

・六甲を水源とする農業用水と棚田、六甲花崗岩の石積、石仏と石造物、巨石

結果と考察

・大規模団地開発が進むなか、歴史的伝統を守る集落が残されていた。そこでは六甲を水源とする農業用水と昔ながらの棚田からなる農村景観があり、ゆったりと散歩を楽しむ地域の老若の住民や子どもたちの姿､伝統を語る家人の誇り､生業を維持しつつ景観を地域で守る意識と努力が感じられた。
・1955 年報告の民家は失われるなど 1990 年代までの変化は急激であったが、その後は指定文化財・登録文化財 2 棟をはじめとする茅葺き民家 27 棟が維持されており、摂丹型民家と播磨系平入民家の混在集落であるが、特に摂丹型民家の分布の南東限として注目される。

註１）松原英男・野地修左・多淵敏樹「六甲山北麓の民家について」『日本建築學會研究報告』1955. 10
註２）神戸市教育委員会『神戸の茅葺民家・寺社・民家集落』1993. 3
註３）三田市『三田市史』第１巻通史編１-考古・古代・中世・近世 - 2011. 3